

ターゲットは 小皇帝



BY SHANGHAI OFFICE

最近、中国で商売を始めようとするとき、もうかる商売のターゲットは、**子供と若い女性**とよく言われます。特に子供向けのマーケットが拡大しているようです。そこで、今回は中国の子供に関する歴史、中国人の子供にかかる費用とその傾向に迫ってみたいと思います。



1. 中国の子供に関する歴史

1950年代、毛沢東は、産児制限を熱心に提唱した著名な学者「馬寅初」の理論に反対し、「赤ちゃんをたくさん産むことが中国をより強大にする」と宣言。そのため、人口は急激に増加しましたが、この膨大な人口が、国の発展や国民生活の向上などの各分野で重荷となりました。

78年以降、政府は、人口問題の重要性を認識し、計画出産を基本国策として「晩婚、晩産、小生、優生」政策を導入。そして翌79年から一夫婦に子供一人と、皆さんご存じの「一人っ子政策」が実施されました。

一人っ子は、両親・祖父母から異常なほどの愛情を受けます。子供達は、物質的にも精神的にも甘やかされて育つため、わがままになりがちで、「小皇帝」と呼ばれています。まさに家の中に誰よりも偉い小さな皇帝がおり、そして、現在この「小皇帝」にかかる費用が、増加しているのです。



「僕(2才)もう英語勉強するんだ。」
お母さんも、必死です。教育ママも日本以上？

2. 中国人の子供にかかる費用

中国人の子供(0～12歳)にかかる費用について、主要5都市(上海、北京、広州、

成都、西安)を対象として、その総額、一世帯当たりの費用、平均月収に対する比率を見てみましょう。

表 1

(単位:元、1元=約15円)

都 市	費用総額(月間)	一世帯あたり費用(A)	平均月収(B)	比率(%)(A)/(B)
上 海	16.0億	972	2,772	35.1
北 京	9.6億	1,009	2,448	41.2
広 州	7.0億	1,101	3,110	35.4
成 都	3.6億	701	1,872	37.4
西 安	2.8億	701	2,395	39.5
平 均		897	2,395	37.5
合 計	39.0億			

(出所:中国統計年鑑2001)

注1) 平均月収: 中国は、9割が共働きのため1人当り平均月収の1.8倍を表示。

注2) 広州、成都、西安の平均月収については、データが省単位(広東省、四川省、陝西省)でのみ公表されており、同データの1.5倍を推定計上。

表 1 を見ると、子供の費用は 5 都市合計で月間39億元(約6百億円)がかかっており、また一世帯当たり費用の平均は897元(約13千円)となっています。ちなみに、この 5 都市の子供(0~12歳)の人口は約411万人ということですから、子供産業は、年間で468億元(約7千億円)のマーケットとすることができます。

都市別に見てみると、一世帯当たり費用では、広州が1,101元と最も高くなっていますが、平均月収に占める割合では各都市とも3割台後半を示し、中でも北京は41.2%と4割を超えています。金額的に広州が高くなっているのは、香港に近く所得水準が高いことによるものと考えられますが、平均月収に占める割合で北京が高くなっているのは、北京の人たちが非常にプライドが高く、負けず嫌いな性格からなののでしょうか?



山積みされた教材(英語VCD)

3. 項目別支出割合

次に上記の 5 都市の世帯を所得階層毎に区分し、項目別支出割合を見てみましょう。

表 2

(単位:%)

項 目	1,000元未満	1,001元 ~ 2,500元	2,500元超
食 品	58.3	58.3	52.7
衣 料	6.3	6.5	6.4
教 育	16.7	21.9	27.4
娛 楽	6.7	7.2	7.9
医 療	6.1	3.9	3.8
小 遣	5.9	2.2	1.8
合 計	100.0	100.0	100.0

(出所:中国統計年鑑2001)



ビックマック9.9元(約149円)、フライドチキン1ピース10元(約150円)と中国の人にとっては決して安くありませんが、土・日ともなれば、親子連れで満員です。

食品関連の支出が、全世帯において5割以上占めていますが、次に多いのが教育関連です。これは、収入の増加と比例して高くなっており、月収2,500元超の高収入世帯では、実に27.4%と収入の4分の1以上を占めています。日本でも塾や習い事で子供にお金がかかりますが、中国においても、状況は同じようです。

4. おわりに

発展を続ける中国経済、外資の進出もあり技術力の進歩もめざましいものがあると同時に優秀な人材が求められています。競争力確保のため国有企業のレイオフ等で失業者数が増加傾向にある中、人口の多い中国では、就職競争は熾烈になっています。現在中国では、如何にして他人との競争に勝ち、幸せな生活を送るかを非常に気にしています。親は、子供に丈夫な体と教養を身につけさせることが、幸せになるための一番のプレゼントだと考えています。そのため子供には、高い出費も惜しまないようで、子にかける親の気持ちは古今東西変わることがないようです。今後も「小皇帝」をターゲットにしたビジネスは、過熱し続けることでしょう。